

## 令和7年度 学校評価 南小学校パワーアッププラン

### 1 目標・方針

中期的な学校運営の 目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力と社会性の土台作り</li> <li>・規範意識の高揚と社会的な生活習慣の育成</li> <li>・自律心の育成</li> <li>・地域学校協働活動による教育の質の向上と保護者の参画</li> </ul>
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム担任制による児童の多面的理解と多角的支援の実現</li> <li>・規範意識の高揚</li> <li>・教職員がウェルビーイングを高め一人として欠けることのない職場づくり</li> </ul>

### 2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	地域・家庭との協働	ア) 基本的な生活習慣の確立 イ) 地域学校協働活動の推進 ウ) 組織ワークの充実 エ) 情報発信	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠習慣は安定して定着している一方で、メディア利用に関しては、家庭内での「自己管理」が課題である。</li> <li>・地域との協働については保護者の認識も高い。5年生のコメ作り、3年生の野鳥観察などふるさと学の定番として行われている。今後は充実を図っていきたい。</li> <li>・フォーム活用による業務改善や研修の充実は高く評価された。一方で、時間外勤務の抑制や年休取得には依然として課題があり、教職員間の協力と意識改革が課題である。</li> <li>・電子化やHP、メール等を活用したタイムリーな情報発信により、保護者・教職員共に肯定的な評価が向上した。しかし、HPでの切れ目のない発信に課題がみられた。今後も伝わりやすい発信を継続し、開かれた学校作りを進める。</li> </ul>
教育課程	主体的・対話的な学びの充実	オ) 学びに向かう姿勢の育成 カ) 協働的な学びの実現	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に即した授業改善や端末活用により、学びへの肯定的な評価が向上した。今後は児童の現状把握の甘さ（メタ認知）や主体性の更なる引き出しを課題とし、研修等を通じて改善に努める。</li> <li>・児童の肯定的な評価は8割を維持しているが、教員の評価は低くなり、協働的な学びの手立てに課題が残った。今後は授業内での対話の在り方を再検討するとともに、授業外でも話し合う機会を創出し、対話力の育成に努める。</li> </ul>

課題教育	人権教育	キ) 自尊感情の育成 ク) 社会的な生活習慣の育成	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のアンケートによれば自己肯定感や友人関係は良好だが、後期は感情制御や言語化に課題が見られ、教員との認識差が拡大した。次年度は自尊感情を高める指導を継続しつつ、SST等の手立てにより感情を言葉で伝える力を家庭と連携し育んでいく。</li> <li>・あいさつ等は改善傾向だが、言葉遣いやルール遵守において児童と大人の認識差が顕著である。生活指導目標や結果の見える化による取組ではおよそ2割の児童に規範意識の課題が見られたり、自分本位な解釈によるトラブルも見られたりする。次年度はさらに社会的に適切な行動を具体的に示すとともに、保護者とも連携しながら児童が抑圧を伴わない個別指導の取組を進める。また、8割の児童に対しては自律性を高めるために一歩先を見越した指導の具体化を図っていきたい。</li> </ul>
------	------	------------------------------	--

### 3 学校関係者評価

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【挨拶・地域参画】挨拶運動と連携体制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの変化を待つだけでなく、大人が肯定的に関わり続ける。</li> <li>・月1回からでも校門での見守りを行い、地域全体で子どもと関わる体制を構築する。</li> <li>・地域と学校だけでなく、PTAも積極的に巻き込んで挨拶の輪を広げる。</li> </ul> </li> <li>2. 【教育課程】地域資源を活かした体験学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学習や遠足と連動し、地域の神社仏閣などの現地でゲストティーチャーが説明をできればよい。</li> <li>・子どもが地域に出ることで、住民も子どもの姿が見えて喜びにつながる。</li> <li>・多忙な教育課程の中でも、かつて行われていたような実体験を伴う学びを重視する。</li> </ul> </li> <li>3. 【広報・発信】学校の「見える化」と情報共有の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム担任の充実に努める。</li> <li>・学級の雰囲気や子どもの具体的な変容が伝わるよう、通信やHPを充実させる。</li> <li>・HPの更新を停滞させず、タイムリーな情報発信を行う。</li> <li>・子どもの変化を丁寧に伝えることで、保護者が家庭で子どもの背中を押せるような材料を提供する。</li> </ul> </li> </ol>
---

### 4 次年度の改善の方向性

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム担任制の深化と情報発信の強化 <p>チーム担任制を継続し、本年度の課題であった「学校のねらい」や「児童の成長」が保護者に可視化されるよう、継続的な情報発信に努める。また、年度当初に「スタート担任」を設定し、家庭訪問や懇談会等の担当を固定化することで、保護者との一貫した信頼関係の構築と相談体制の充実に取り組む。</p> </li> <li>2. 学習意欲を喚起する授業改善の推進 <p>体験的な学びを軸とした学習活動を展開するとともに、探究的な学びや協働的な学びの具現化を図る。研究の焦点を絞り込み、児童の知的好奇心と学びの意欲を喚起する質の高い単元づくりを推進する。</p> </li> <li>3. 情報モラル教育と望ましい生活習慣の定着 <p>ICT端末の活用が進む中、情報モラル教育を強化する。家庭でのスクリーンの利用時間を含め、児童が自律的にデジタル機器と付き合えるよう、家庭と連携して望ましい生活習慣の定着を図る。</p> </li> </ol> <p style="text-align: center;">令和 8 年 3 月 12 日  学校名 丹波市立南小学校  校長名 足立 圭造</p>
--